

## 小笠原空港開設・航路改善特別委員会速記録

平成26年12月11日（木曜日）午後2時開会

### 出席委員（7名）

委員長	池田 望君	副委員長	一木 重夫君
委員	高橋 研史君	委員	片股 敬昌君
委員	鯨江 満君	委員	杉田 一男君
委員	稻垣 勇君		

---

### 委員外出席議員（1名）

議長 佐々木 幸美君

---

### 出席説明員

村長	森下 一男君	副村長	石田 和彦君
教育長	伊藤 直樹君	総務課長	渋谷 正昭君
総務課副参事	鈴木 敏之君	企画政策室長	樋口 博君
財政課長	江尻 康弘君	村民課長	村井 達人君
医療課長	佐々木 英樹君	産業観光課長	牛島 康博君
自然管理専門委員	岩本 誠君	建設水道課長	篠田 千鶴男君
建設水道課副参事	増山 一清君	母島支所長	湯村 義夫君
出納課長	菊池 元弘君	教育課長補佐	大津 源君

---

### 事務局職員出席者

事務局長 セーボレー 孝君 書記 菊池 ひろみ君

## 議事日程

日程第1 小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について

日程第2 小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について

日程第3 その他

日程第4 閉会中の継続調査について

---

### ◎開会の宣告

○委員長（池田 望君） ただいまから小笠原空港開設・航路改善特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

(午後2時)

---

### ◎会議時間の延長

○委員長（池田 望君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

---

### ◎説明員の出欠について

○委員長（池田 望君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（セーボレー孝君） 本委員会の説明員は、全員が出席との報告を受けております。

以上でございます。

---

### ◎小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について

○委員長（池田 望君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、9月定例会以降の小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） それでは、前回の委員会以降の動きにつきましてご報告をさせていただきます。

1点目が陳情活動その他でございます。来島の視察がございました。

10月18日便、国土交通省の岩下特別地域振興官一行が来島されております。村のほうから航空路の東京都の3案及び村の考え方、それを説明した上で候補地である洲崎も視察いただいたところでございます。

10月25日便、東京都議会公明党視察団一行が来島されております。26日には産業団体との意見交換。また、27日には村長、議長、各議員との意見交換が開催され、航空路の意見交換もされたところです。27日においては、候補地である洲崎もご視察いただいている状況でございます。

それから11月28日便、東京都の港湾局、小幡島しょ小笠原空港整備担当部長、それから石

崎小笠原空港整備担当課長が来島されております。候補地である洲崎の視察をなさったところでございます。

それから、2点目でございます国・東京都に関することで、小笠原諸島の振興開発計画（案）における航空路に関する記述が固まったところです。9月の委員会の際にお配りしました計画案と比較したときに、二重線を引っ張ってあるところが変更されたところでございます。読み上げさせていただきますが、「航空路の開設については、関係者間の円滑な合意形成を図るため、P I の実施に向けた調査等を引き続き実施する。調査に当たっては、世界的に貴重な自然環境への影響をはじめ、さまざまな課題があることから、関係者との調整等に慎重な配慮を行いながら、引き続き課題の整理、検討を進めていく。」という形になったところでございます。

それから、3点目の報告、村に関することでございます。

今年度平成26年度村の航空路の調査につきましては、村の案に基づく空港整備の概算事業費、これの積算を行っているところでございます。11月下旬に中間報告を受けましたが、作業につきましては2月下旬ぐらいまでに終わらせるという報告を受けております。

それから、来年度の航空路の調査でございます。まだ予算要求の段階でございますので、担当課として来年度こういう調査をやりたいというふうにご理解いただければと思いますが、いずれ東京都と調整を進めていく中で事業費もそうですが、運航会社をどうするということも大きな課題としていずれぶつかる状況になるかと推測しております。村としましては、この運航会社の一定の考え方も持ち得ておきたいということで、来年度できましたら運航会社に関する調査を行いたいというふうに考えているところでございます。

報告は以上でございます。

○委員長（池田 望君）　ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

片股敬昌委員。

○委員（片股敬昌君）　航空路調査等に航空フォーラム、清水さんのはうとつながり、関係があるのかということと、新しい情報がもしありましたら何か教えてください。

○委員長（池田 望君）　総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君）　今年度調査につきましては、村の考え方をベースに事業費を算出しておりますので、航空フォーラムに委託を出している状況でございます。来年度の調査につきましてもやはり村の航空の考え方、村の状況をご存じである航空フォー

ラムにできましたらお願ひしたいというふうに考へてあるところでございます。

○委員長（池田 望君） ほかに。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 25日に公明党の都議団の視察、そして28日に東京都港湾局等の視察があつたということですけれども、まずこの港湾局等の視察に来島されたときにまずどういう話が出たのか、どういう話をしたのか、村と。

それともう一つは、この中でP I協議会の話は出なかつたのかどうか、それをちょっと聞きたいと思います。

○委員長（池田 望君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 港湾局の担当部長、担当課長につきましては、12月1日来島予定だった知事の先発隊としてご来島をされたというところでございます。知事来島に当たって、村とのかかわりの中では村が直接航空路についてなかなか説明をしたりという部分はなかつたんですが、村長の対応は当然あるとして、実務的にはほかのところで担当部長と担当課長にお会いしまして、お伺いしたのは、今回部長も課長も洲崎を現地、それから飯盛山に登って上から、それからもう一つ、中山峠も登ってご覧になつたという話は伺つてあるところでございます。

（「P I協議会についてはしていないの」と呼ぶ者あり）

○総務課企画政策室長（樋口 博君） それからすみません、P I協議会については、話そのものは具体的には出ませんでした。ただ、実務担当者として、とにかくP I協議会を早く実施できる状況をつくり出すのが実務方の役割だと思っています。実務協議を急いでやつてある状況でございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） そうすると、企画政策室長の感触では、今年度もP I協議会は開かれることはないという形ですか。

○委員長（池田 望君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 今年度という観点で言えば、今年度行われるような状況には多分まだないというふうに実務的には考へてあるところでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） この航空路に関する記述の中にも「P Iの実施に向けた調査等を引き続き実施する」と書いてあるんですけども、調査だけ実施しても私は余り意味がないと

思うし、その調査を生かした協議会こそ優先してやるべきだと私は思っていますし、もし今年度がだめであれば来年度は必ず実施する方向に精力的に動いていただきたいと、そう思っています。

村長は多分知事とも東京でお会いしているのではないかと思いますけれども、もしお会いしているのであればこの航空路に関して話をしたのかどうか、したとすればどういう感触を得られたか、ちょっとお聞かせください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず、P I 協議会のことにつきましては、この委員会の中でご報告をしていますように、P I 協議会が開催されたときに実利のある会議になるようにということで、今実務方が国の方の航空局も交えていろいろ今ある課題の整理等をやっておるところでございますので、そこをきちんとP I 協議会を迎えるべく、このように思っています。

知事にお会いした際に、今回の場合には主眼としては来島要請でございましたが、当然のことながら航空路課題、大きな課題としてのお話はしております。必要性について知事のほうから何ら疑義があるものではございませんでした。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長にお願いしたいのは、ぜひ知事と膝詰め談判とまではいかなくても、改めてこの航空路の重要性を訴えていっていただきたいと思うのと、企画政策室長のほうには先ほど言いましたように、P I 協議会は一日でも早くできるように、開催されるよう力強く進めていただきたいと思います。

この3番目の村に関することで、運航会社に関する調査を予定していると、来年度は。具体的にはどういうことをするんですか。

○委員長（池田 望君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 今まで村の空港に対する基礎調査の中で運航会社に対する考え方、どんな形で運航会社を確保できるのか、あるいは独自につくらなきやいけないのか、いろいろな話は意見としては出ておりました。

ただ、村としてそれをまとめてこういう考え方でいきたいというところに至っておりませんでしたので、先々考えたときに東京都ともそういう話にぶつかるというところでは村の考え方を整理したいと思っています。その前段で、来年度は実際の全国の空港を使って飛ばしている運航会社の形態、例えば株式会社であったり第三セクターであったりいろいろ

な形態がございます。その実態を把握するということ、離島路線においてはどういう形式が多いのか、それぞれ運航会社の収支はどういう状況になっているのか。その上で、小笠原の空港を考えたときにどういった一般論として運航会社の形態が考えられるのか、それを踏まえて村としてはこの形式がいいのではないかというところまで調査としては持つていきたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 確かに沖縄でもこの運航会社の確保というのは非常に難しい問題がありまして、せっかくP.I.協議会を卒業しても運航会社が見つからないという事態が起きています。ですから、これはやはり航空路開設に向けた動きの中で、同時並行でこの運航会社に関しても調査するのは私は大変いいことだと思います。そういうことも踏まえまして、来年は文字だけではなく行動でぜひ示していただきたいと、こうお願いしておきます。答弁は要りません。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員は挙手をしてください。

高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） 航空路に関してですけれども、これもやはりサンゴの例の密漁の問題と絡んでおりまして、自民党の11月5日の合同部会において、小笠原諸島周辺の警戒体制が脆弱であるということを踏まえて、この部会では飛行場の設置もぜひ必要だという決議をいただいております。村は従来飛行場の必要性について民生安定化のためというそういう大きな目標を持っていたわけですけれども、今回のこういう事案を受けてそのような安全保障の面からも必要であるというようなことが自民党の部会からも言われております。

まず1点目、村長にお伺いしたいのは、この村の大きな空港設置に関する目的というか、それのシフトを変えていくのか、それともそういう面も加えていくのか、どういう必要性を新たに加える必要があるかどうか考えているのかということと、もう1点は、このような4部会が合同して決議していただいたということはかなり大人数の政府の与党の先生方が決議していただいているということです。これは大きな力になると思うんですね。今まで東京都に対して第三種空港ということでお願いしてきているわけではございますけれども、これがいきなりでは違うところにということは即ならないとは思うんですけれども、この大きな力を今後小笠原の望んできた空港建設にどう結びつけるか、どういう戦略をお持ちになっているのか、この2点をお伺いしたいと思います。お願いします。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 高橋委員のご指摘のとおり、従来、民生の安定のための航空路の開設ということを掲げてお願いをしてまいりました。ただ、今回の法律の延長の際に、プラス国境離島ということを強く審議会でも申し上げてきましたし、各先生方にも小笠原は国境離島であると、したがってそういう国防ということからも航空路の必要性ということについては申し上げてきたつもりですが、やはり従前ここが大変平和な海域であったために、空域であったためにそこについては説得力を欠けていたのかもしれません。しかし、今回の事案が起こったことによりまして、今ご指摘のありましたように、私どもの振興を担当するところだけではなくて幾つかの委員会の中で航空路の必要性についてきちんと提言をしていただいたということは大変大きなことだと思っております。

中国の密漁船によるさまざまな今回起きた事態は大変残念なことではございましたが、私どもがそういう意味では国の国政に携わる多くの先生方またはお役所の関係機関の方にもそのような意識が芽生えたと思いますので、それを航空路開設に向けていい方向に結びつけていきたいと、このように思っているところでございます。

○委員長（池田 望君） よろしいですか。

ほかに質疑のある委員は挙手をしてください。

（挙手する者なし）

○委員長（池田 望君） よろしいでしょうか。

質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

---

#### ◎小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について

○委員長（池田 望君） 次に、日程第2、小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課長、渋谷君。

○総務課長（渋谷正昭君） 小笠原航路改善に向けた経過報告をさせていただきます。

前回の委員会以降で、まず1番目としまして、平成27年度上期おがさわら丸運航スケジュールについてでございますが、運航スケジュール案については前回委員会前に提示されおりましたが、これに対しての修正案を要望し、小笠原海運のほうから11月25日付で回答が参りました。

主な要望内容と結果でございますが、来年の7、8月の着発便について、特に観光協会などからの要望を踏まえ、父島入出港日の変更で3泊便、4泊便の曜日の並びかえの配慮をお願いしたところ、要望どおりに変更となりました。また、来年に限ったことではございますが、東京停泊日を1日ずらすことで、例年恒例となっております10月初めの小・中学校連合運動会の日に船がない状況のときに開催できるということもありまして要望したことろ、これについての変更も了解をされたところです。

別紙1、今のページから2枚めくっていただくと、別紙1、字が小さいですが、平成26年と平成27年の比較表でこの変更案が提示されております。こちらにつきましてはもう先週、既に運輸局の認可が出て小笠原海運のほうでは先週このスケジュール案について公表がされているところでございます。

次に、2としまして、おがさわら丸の新造船の建造に向けた動きということでございますが、昨年度、基本的な概要について定まった以降、東京都と村と小笠原海運の三者の担当者を中心とした内容についての打ち合わせ等が行われております。村のほうは案をいただきますと航路検討会を開催したり、また前回の委員会でも皆様に案をお示ししてご意見をいただきながら、特にハード面、構造について船体の内容について議論を進めているところで、8月末に一度小笠原海運のほうから説明がありまして、これについて本来は最終案ということにはなっていましたが、1週間ほどお時間をいただいて、再度意見を各団体からもらい、提出をした内容が多少反映されて、11月6日に新たな修正案が示されたところでございます。それで、12月3日にこちらでは小笠原航路検討委員会を開催し、現時点での配置案を説明したところでございます。また、この検討会においてハード面については今年度が詳細設計ということではなく最終案という位置づけになりますので、このハード面でカバーできる運用面、ソフト面での意見の取りまとめというものを今後行っていきたいということで、検討委員会の各団体には運用面の意見取りまとめを先般行ったところでございます。

別紙の2、図面をちょっと見ていただきたいんですが、非常に細かくて恐縮ですが、主だった今回の修正は、まず特2等だけではなくて2等も寝台ができたりして非常にリネン関係の船に必要な収納するロッカーをやはり見直したところ多く必要だということ、それらを改善する中で特1等が従来の案より1部屋減りました。また、特2等についてもマイナス8名となりまして、逆に2等の多目的室、バリアフリー室についてここだけ若干2等の1人当たりのスペースの幅を5センチほど狭めるという形で人数、定員をプラスにしまし

て、差し引きで結局892名の定員という形に最終的になっております。900名という数字を村から要望しておりましたが、8名程度の減ということでございましたので村のほうとしても了解をし、東京都も基本的な採算面のことを踏まえてこの数字で了解をしたというふうに聞いております。

あとは、主だったところで言いますと、一番上のデッキについては外デッキに、今の船も立入禁止になっている柵がありますけれども、ハンドレールという部分がなるべく前のほうになるように移動をしていただいております。それによって一般の方が立ち入りできるデッキスペースが増えているという状況です。

また、主だったものとしては、特2等のところのベッドが上になってどうしてもつくり上、下に空隙ができる場所があります。これを廊下側に持ってくることで手荷物スペースまたはリネンスペースを新たにつくったと。それから、多目的室のところについては左舷側だけではありますが、シンクをつけていただいたり、また出入り口が広くなるような工夫をしていただいている。

また、キッズルームが狭いというご意見もありまして、授乳室の2ブースというのは変わりないんですが、そこを若干狭めましてキッズルームを広くしております。結果的には現在のおがさわら丸のキッズルームよりも2倍ちょっと広くなるようなスペースを確保していただいている。

あとは、給湯器ですかそういったものが新たに加えられたというような状況です。

ちょっと図面が小さいので、もし詳細に見たいという場合には大きくしたサイズのものも用意できますので、お申しつけいただければと思います。

先ほど言いました運用面のほうについては、基本的なこの機会にということもありますので、ハードでカバーできない部分のソフト面という視点とそれからサービス面等、本来であれば今でも導入できる部分もあるかと思いますが、そういった面も含めて意見を1月下旬ぐらいまでに各団体からはいただくようにしております。議員の皆様からも、もしこういった面を要望してくれというのがございましたら私のほうにお申しつけいただければと思います。

続きまして、戻りまして3番でございますが、ははじま丸新造船の建造に向けた動きということで、11月14日、伊豆諸島開発の臨時取締役会書面開催についての文書が参りまして、その内容として、父島・母島間の代替船建造についての審議ということで、取締役の一人である村長宛てに書面が参りました。これについては11月28日、ほかの取締役の書面もそ

ろったことということで、上記について承認ということが報告されております。

別紙3をご覧いただきたいと思います。

この内容は、新造船建造の理由というところでは老朽化を迎えていいるというようなこと、それから平成23年の東京都で行っています離島航路改善協議会で平成28年度をめどに代替船を就航させるべきということの報告があったこと、それから今年6月30日の協議会では代替船建造の承認が得られたということが書かれております。

建造の仕様としましては、父島・母島間の貨客船、航行区域、沿海区域と、所有形態としては鉄道・運輸機構との共有船という形になります。主要要目では、お手元の表で現ははじま丸と新造船との比較表がございますが、新造船というところで申し上げますと、全長65メーター、9メーター弱長くなると。それから幅については11.90ということで2.9メーターほど幅が広くなります。深さ4.05で、喫水は3.4メートルで現在と変わりはございません。総トン数は9トン増えまして499Gトンです。主機については2,200馬力の2基という形で、航海速力16.5ノット、14ノットから16.5ノット。スタビライザー、またバウスラスターをつけることで接岸も早くなり、今現在の2時間10分から2時間にというような速力になると聞いております。それから旅客定員については168名から200名、コンテナも10個から20個搭載ということで、クレーン能力もアップするというような内容になっております。

次のページで見ていただきますと、今のような特徴的な変更が書いてありますと、4番でございますが、新造船建造スケジュールということで、平成27年4月ごろ契約と、進水を平成28年3月にし、竣工引き渡し平成28年6月で、就航を平成28年7月ごろを予定ということでこちら最後のところを予定と、あくまでも予定ということになりますが、建造費については16億円で、東京都の補助金50%、国の補助約10%、そして鉄道・運輸機構からの借り入れ40%という内容で予定されていると聞いております。東京都の予算がこれから審議でございますので、就航等もあくまでも予定ということでご理解いただければと思います。

また、資料1枚目に戻りまして、4番でございます。燃料油価格変動調整金についてということで、おがきわら丸の燃料油価格変動価格調整金でございますが、既に調整金のゾーンが決まっているところから過去1年分を見ますと、今年の3月、4月が10ゾーンでございました。その後9ないし10ゾーンでございましたが、来年の1月が8ゾーン、また2月が6ゾーンということで下がりぎみになっております。最近のニュースでもご存じだと思います。

いますが、原油価格が相当下がっておりまして、きょうの原油価格から設定すると既に4ゾーンぐらいまで落ちておりますので、3月はこの6ゾーンぎりぎりか、下がる可能性が大分出てまいりました。

次のページですが、この6ゾーンを超えたところから始めております変動調整金の補助事業でございますけれども、4月からの実績をこちらに上げております。11月までの合計が、大人が1,253名、子供114名、その他40名で補助額合計が266万円になっております。この補助事業でございますが、本年度末をもって終了したいというふうに執行部では考えてございます。

3番としまして、ははじま丸の燃料油価格変動調整金の推移ということで、同様に平成26年3月から推移を上げております。平成26年3月がプラス17ゾーンに始まり、やはりこの最近の原油価格の下げの中で来年の2月についてはプラス13ゾーンまで下がるということまで決まっております。

説明については以上でございます。

○委員長（池田 望君） 説明は終わりました。

質疑のある委員は挙手をしてください。

一木重夫副委員長。

○副委員長（一木重夫君） おがさわら丸の補助金の支出、燃油価格調整金の補助金が今年度末をもって終了することなんですけれども、村民の側からしてみれば、燃油が高くなったらできるだけそういう補助があればなと思うんですけども、今年度末をもって終了する何か理由はあるのでしょうか。

○委員長（池田 望君） 総務課長、渋谷君。

○総務課長（渋谷正昭君） この制度自体はプラス6ゾーンを超えたときから大人については往復で2,000円の補助をすると、調整金のアップ分の負担軽減を図るということでやってまいりましたが、非常に事務もひとつ煩雑だというのもございますのと、大分利用の形態について多少疑義の出る場合があつたりというのが一つ、それから下げ傾向になってきたこと、そしてまたこういった個々の一人一人の調整金でというよりは、今まだ特に案を持っているわけではないんですが、将来的な運賃の割引とかそういったところに力を注いでいるふうに思っております。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員は挙手をしてください。

（挙手する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑はよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終了いたします。

---

#### ◎その他

○委員長（池田 望君） 次に、日程第3、その他事項で何かございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） ありませんか。

質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

---

#### ◎閉会中の継続調査について

○委員長（池田 望君） 次に、日程第4、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りいたします。

お手元に配付の事件調査のため閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることにいたしました。

---

#### ◎閉会の宣告

○委員長（池田 望君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、小笠原空港開設・航路改善特別委員会を閉会いたします。

（午後2時35分）